

県内9か所の農業改良普及センターからの現地情報をお届けいたします。

みやぎの

6月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.220 2025.6

紹介内容（5/1～5/30）

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 栗原農改：令和7年度栗原農業士会通常総会及び研修会が開催されました
 - 大河原農改：営農管理システムの導入に向けた研修会を開催しました
 - 大河原農改：村田町の農事組合法人で農作業安全研修会が開催されました

- ② 新たな担い手の確保・育成・・ 1
 - 仙台農改：株式会社ディーエスが設立されました
 - 亘理農改：下余田Ⅱ期地区担い手部会総会が開催されました
 - 亘理農改：【地域農業を担うリーダーを目指して】農業大学校生が亘理普及センターを訪問
 - 仙台農改：みやぎ農業未来塾 就農準備塾を開催しました！
 - 石巻農改：JA新みやぎ仙台小ねぎ部会の共同選別場を現地調査しました

- ③ 先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - 大河原農改：水稻優良品種決定現地調査の田植えを行いました

- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・ 3
 - 大河原農改：JAみやぎ仙南花卉部会防除講習会が開催されました
 - 亘理農改：亘理町の高野りんご園でりんご花見会が復活！
 - 亘理農改：JAみやぎ亘理いちご部会への寄付贈呈式
 - 大河原農改：加工用トマトの定植が行われました
 - 登米農改：JAみやぎ登米花卉部会、スターチス専門部で現地検討会が開催！
 - 気仙沼農改：JA新みやぎ階上いちご部会による「いちごまつり」が開催されました！
 - 大河原農改：母の日に向けたポットカーネーションの現地検討会が行われました
 - 石巻農改：JAいしのまき大規模露地園芸部会第1回通常総会が開催されました
 - 気仙沼農改：枝もの用クロマツの播種作業研修会が開催されました
 - 登米農改：JAみやぎ登米りんご生産部会総会が行われました

- ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - 亘理農改：亘理地区の令和7年度水稻育苗現地講習会が実施されました
 - 石巻農改：麦類現地検討会が開催されました
 - 石巻農改：種子大麦生産ほの第1期ほ場審査を行いました！

⑥ 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・7

- 仙台農改：了美ヴィンヤード&ワイナリーが創立 10 周年記念式典を開催しました
- 栗原農改：地域内外の人々が交流する田植え体験会が開催されました
- 気仙沼農改：生活研究グループの研修会が開催されました
- 仙台農改：利府高校の生徒による梨の花粉交配作業が行われました
- 亘理農改：【『幻のメロン』クールボジャ】順調に生育中！

2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

① 環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援・・・・・・・・・・・・・9

- 気仙沼農改：海洋プラスチック問題に配慮したペースト肥料の実演会が開催されました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

- 令和7年度栗原農業士会通常総会及び研修会が開催されました
令和7年5月1日
栗原農業改良普及センター



令和7年4月18日、栗原市志波姫のエポカ21を会場に令和7年度栗原農業士会通常総会及び研修会が開催されました。

通常総会では、前年度の事業内容及び新年度の事業計画等が議題として提案され、いずれも承認されました。

研修会では、普及センター職員を講師に令和7年度の普及指導計画の概要について説明を受け、持続可能で多彩な栗原地域の農業に向けて普及センターが本年度取り組む活動を確認しました。

普及センターでは、栗原地域の農業振興のため農業士の方々とともに活動を進めてまいります。

- 営農管理システムの導入に向けた研修会を開催しました
令和7年5月15日
大河原農業改良普及センター



令和7年4月11日、農事組合法人葉坂希望の郷(柴田町)において、革新支援専門員を講師とした営農管理システムの研修会と意見交換を行いました。

このシステムを活用することで、航空写真をベースにした圃場マップに農作業記録をひもづけることができ、リアルタイムでの進捗状況の共有が可能となります。また、労務管理と作業日報作成の省力化に有効な手法となります。

今年度は、作業者が自身のデジタル端末から作業実績の記録を行うことを目指しており、将来的には、農作業記録の電子化による事務負担の軽減を目標としています。

大河原農業改良普及センターは営農管理システムの活用に向け、引き続き支援を行ってまいります。

- 村田町の農事組合法人で農作業安全研修会が開催されました
令和7年5月20日
大河原農業改良普及センター



春の農作業の本格化に先立ち、4月7日に農事組合法人Natureにおいて農作業安全研修会が開催され、普及センターが講師を務めました。

普及センターより、春から夏作業についての農作業安全のポイント(農作業全般、全機種共有、乗用トラクター、刈払機)や、従業員同士が危険な場所や事故のヒヤリハットを共有し、注意喚起を行うことが重要であることについて説明を行い、参加者から農作業で危険を感じた場面について意見を出し合うなど、農作業安全対策について話し合いました。

法人では、昨年度、普及センターの助言により、補助金を活用して高齢従業員の空調服を導入するなど、労働環境の改善に積極的に取り組んでいます。

普及センターでは今後も、研修会や現地での指導などを通し、農作業安全に向けた対策について支援してまいります。

②新たな担い手の確保・育成

- 株式会社ディーエスが設立されました
令和7年5月1日
仙台農業改良普及センター



大郷町の農事組合法人ディーエスファームは、粕川地区の担い手として、水稻、大豆を中心とした営農に取り組んできました。しかし構成員の高齢化が進み、組織や営農体制の維持が困難になることが見込まれたことから、将来の役員の確保や社会情勢の変化に対応した事業展開を進めるため、会社形態を株式会社に変更する準備を進めてきました。

普及センターでは法人からの要望を受け、宮城県農業・経営就農支援センターとも連携し、各種の専門家の協力を得ながらこの動きを支援してきました。

そして令和7年4月1日に、農事組合法人ディーエスファームは、新たに20代から40代の若手農業者3名を経営陣に迎え、「株式会社ディーエス」に生まれ変わりました。令和7年4月25日（金）には設立総会が開催され、経営が本格的にスタートしています。

普及センターでは、経営の早期安定に向けて、引き続き支援を続けてまいります。

○下余田Ⅱ期地区担い手部会総会が開催されました

令和7年5月7日

巨理農業改良普及センター



令和7年4月25日、名取市役所を会場に令和7年度下余田Ⅱ期地区担い手部会総会が開催されました。当日は、部会員12人が参加し、令和6年度事業、収支決算の報告や令和7年度事業計画（案）、収支予算（案）が審議され、原案のとおり可決されました。

担い手部会は昨年8月に設立され、下余田Ⅱ期地区ほ場整備事業の円滑な推進のため、土地利用調整活動、高収益作物の生産性向上に関する活動や農地所有適格法人等の持続的な経営の発展に関する活動等を実施しています。

取組み初年度の昨年はどのような活動をしたら良いか手探りの状態でしたが、設立2年目になり今年度は、昨年の活動を振り返りながら自主的な活動を展開できるように、普及センターも高収益作物（えだまめ）実証ほを設置する等積極的に支援してまいります。

○【地域農業を担うリーダーを目指して】農業大学生が巨理普及センターを訪問

令和7年5月7日

巨理農業改良普及センター



令和7年4月25日、当地域農業への理解促進や就農意欲向上を目的として、宮城県農業大学校1年生の普及センター訪問に合わせて「みやぎ農業未来塾」を開催しました。

初めに普及センターから、地域農業の概要、普及センターの仕事内容、就農支援について説明を行いました。続いて学生との意見交換では「農業法人で就農し、将来的には独立したい」等の進路希望を聞くことができました。

最後に、普及センター駒井所長が「先進農業体験学習を通じて、地域農業への理解を深めるとともに、人脈を広げることで、農業大学校での学びを深めてほしい」とエールを送りました。

今後も、普及センターは地域農業の担い手となる新規就農者や青年農業者の支援を行ってまいります。

※農業大学校について

農業の近代化と経済社会の発展に対応できる、高度な知識・技術を身につけ優れた農業経営者と農村地域の指導者の育成を目的として設置された大学校です。

宮城県農業大学校 HP

<https://www.pref.miyagi.jp/site/noudai/>

○みやぎ農業未来塾 就農準備塾を開催しました！

令和7年5月8日

仙台農業改良普及センター



令和7年4月25日（金）に、宮城県農業大学校新入生の普及センター訪問に合わせ、例年開催している「みやぎ農業未来塾 就農準備塾」を実施しました。

今年は仙台管内出身の学生だけでなく、県外出身の学生も参加し、総勢22名が来所しました。自己紹介の際はやや緊張した面持ちでしたが、普及センターの職員から、普及指導員の仕事や仙台地域の農業

の概要、新規就農者向けの支援制度についての講義を行った際は、積極的に質問をする様子が見られました。

全体を通しての質疑応答の際には、「普及指導員は支援先の農家、どのような会話をしているのか」、「宮城県で取り組んでいる最新の農業技術はあるか」、「親元就農への支援はあるか」といった県の農業に関する質問や、自身の将来を見据えた質問が挙げられたほか、「県職員の給料はどれくらい?」、「おすすめの農家レストランは?」といったフランクな質問もありました。

新入生の皆さんは、今年の秋には先進農業体験学習が控えております。仙台農業改良普及センターでは、今後も、将来の担い手となりうる皆さんの学びを支援してまいります!

○JA新みやぎ仙台小ねぎ部会の共同選別場を現地調査しました

令和7年5月23日

石巻農業改良普及センター



令和7年5月20日に、石巻普及センターの職員は、JAいしのみきスリムねぎ部会員とともに、涌谷町にあるJA新みやぎ仙台小ねぎ部会の共同選別場を現地調査しました。

JAいしのみきスリムねぎ部会では、スリムねぎの産地活性化に向け、担い手の確保・育成に有効な手段のひとつとして、共同選別場の導入を検討しており、当普及センターもこの取組を重点的に支援してきました。

参加した部会員は、仙台小ねぎ部会員と意見交換をするなど、共同選別場の運営手法などについて確認していました。

当普及センターでは、今後もJAいしのみきスリムねぎ部会の活動を支援していきます。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

○水稻優良品種決定現地調査の田植えを行いました

令和7年5月28日

大河原農業改良普及センター



県では、主要農作物種子条例に基づき、県内に普及を促進する主要農作物の優良品種(優良品種)を決定するために必要な試験(優良品種決定調査)を実施しており、県内の各普及センターでは供試品種及び系統の地域適応性を調査しています。

大河原農業改良普及センターでは、山間高冷地帯における早生系統の適応性を評価するため、七ヶ宿町に現地調査ほを設置しており、令和7年5月26日(月)に早生1系統、比較1品種の田植えを行いました。写真のように、田植機で移植後、欠株の場所に普及員が手作業で植え直しを行い、供試する系統が同じ栽培条件で評価されるようにしています。今後、生育期間中の観察調査や成熟期調査、収量・品質調査を実施し、県全体の成績と合わせて品種化が検討されます。

④園芸産地の育成・強化支援

○JAみやぎ仙南花卉部会防除講習会が開催されました

令和7年5月1日

大河原農業改良普及センター



令和7年4月2日にJAみやぎ仙南花卉部会の総会に先立ち、防除講習会が開催されました。

講習会では始めに農薬メーカー3社から、昨年被害が多かったオオタバコガの防除を中心に説明がされました。続いて普及センターより、花き栽培における夏季の高温対策について講義を行いました。

近年は夏の気温が高い年が多くなっており、花き生産においても高温対策が重要となっています。出席者からは、収量・品質向上に向けた質問が多く出され、有意義な講習会となりました。

普及センターでは引き続き、関係機関と連携しながら花き生産の支援を行ってまいります。

○巨理町の高野りんご園でりんご花見会が復活！
 令和7年5月1日
 巨理農業改良普及センター



令和7年4月27日に巨理町神宮寺の高野りんご園ではコロナ禍を経て5年ぶりに「りんご花見会」を復活させました。コロナ前は25年間ほど継続してきたイベントです。参加者は40名を超え、晴天にも恵まれ、楽しい花見会となりました。

高野りんご園は、カキ殻を施し、栄養価が高くミネラル豊富なりんごやゆず、お米を生産しており、りんごは「ナノりんご」として商標をとっているほどのこだわりを持った園です。

今回は、りんご花畑の散策（園主のこだわりのりんごづくり説明含む）やしやくなげの鑑賞、クイズ等企画され、参加者からも「りんごの花もきれいだったし、農家の苦労もわかりました」と感想を聞くことができました。

また、おみやげ品に、昨年10月に県内で初めて開店したりんご農家のアップルパイ販売店「アップルパイカフェ高野」の自家製りんごを使った「ゴロっとりんごパイ」が配られ、大変好評でした。

普及センターでは、関係機関と連携して、りんごの生産安定とアグリビジネスの推進等に向けた支援を行っていきます。

○JA みやぎ亘理いちご部会への寄付贈呈式
 令和7年5月1日
 巨理農業改良普及センター



令和6年9月から令和7年3月まで、宮城県産いちご（旧：JAみやぎ亘理産）を使用した清涼飲料水が販売されました。この商品は、いちご生産者への支援を目的に、製造者と販売者による合同企画として誕生し、販売本数に応じた寄付が行われました。

令和7年4月8日（火）には、JA仙台遼限支店（旧JAみやぎ亘理本所）にて寄付贈呈式が開催され、いちご生産者を代表してJAみやぎ亘理いちご部会長へ直接手渡されました。

○加工用トマトの定植が行われました
 令和7年5月14日
 大河原農業改良普及センター



仙南地域では農地整備後の大区画ほ場で取り組む高収益作物の導入を推進しています。

柴田町の農事組合法人「葉坂希望の郷」では、今年度初めて食品メーカーと出荷契約を結び、加工用トマトの生産に取り組んでいます。

4月30日には定植作業が行われ、半自動トマト移植機を用いて慎重にポット苗を植え付けました。

普及センターでは関係機関と連携し、排水対策や省力化技術の可能性も探りつつ、同法人の継続的な生産に向けた体系の確立を支援してまいります。

○JAみやぎ登米花卉部会、スターチス専門部で現地検討会が開催！
 令和7年5月16日
 登米農業改良普及センター



令和7年4月30日に出荷最盛期に向けて、JAみやぎ登米花卉部会スターチス専門部の生産者ほ場を会場にして、現地検討会が開かれました。

これから収穫を迎える生産者2人のハウスを巡回し、現在の生育状況や今後の管理について意見交換が行われました。意見交換では昨今の気象への対応や、病害虫の発生状況について活発に話し合われました。

普及センターからは、今後の栽培管理や農薬の適正使用について情報提供を行いました。特に農薬の適正使用については、薬剤耐性及び抵抗性の発達を防ぐためのローテーション散布を呼びかけました。

普及センターでは引き続き、産地発展に向けた支援を行ってまいります。

○JA新みやぎ階上いちご部会による「いちごまつり」が開催されました！
 令和7年5月23日
 気仙沼農業改良普及センター



令和7年4月20日、JA新みやぎ気仙沼農産物直売所「菜果好（なかよし）」で、気仙沼産いちごのPRのため、JA新みやぎ階上いちご部会による「いちごまつり」が開催されました。このイベントはいちご収穫の最盛期に合わせて毎年開催しており、同部会の生産者が栽培した「とちおとめ」、「もういっこ」、「かおり野」計500箱（2パック/箱）を部会員が店先に立ち販売したほか、同部会のいちごを使用した、ババロア、いちごサンド、自然卵農園（株）のクレープなどが販売されました。

老若男女幅広い年齢層の買い物客で賑わい、品種による食味の違いや、どのぐらい保存できるかなどのアドバイスを部会員に直接聞いて次々といちごを買い求めていました。

同部会の三浦部会長は「大勢の人に買い求めて頂き嬉しい。気仙沼いちごを広くPRできたと思う。」と話されていました。

気仙沼農業改良普及センターでは、同部会員の栽培技術向上による収量向上等に向けて引き続き支援していきます。

○母の日に向けたポットカーネーションの現地検討会が行われました
 令和7年5月28日
 大河原農業改良普及センター



柴田町を中心とした鉢花生産者は、平成7年に設立された柴田鉢花研究会では、全員で会員の圃場を巡回し生産技術の共有による技術の向上を図り、年間を通じた出荷販売に取り組んでいます。主力品目のポットカーネーションは、市場や量販店への出荷の他、ゆうパックで全国に発送されるなど、東北有数の産地となっています。

母の日の需要期を前に、4月16日に生産者と資材業者、関係機関の8人が参加し、現地検討会が開催されました。各会員のほ場を巡回したなかで、鉢の姿が下位葉と上位葉の草姿や蕾の大きさ、色づき状況から出荷予想時期を確認しました。普及センター担当より講評の中で今後の管理について助言を行いました。

○JAいしのまき大規模露地園芸部会第1回通常総会が開催されました
 令和7年5月28日
 石巻農業改良普及センター



令和7年5月20日に、JAいしのまきの主催による大規模露地園芸部会第1回通常総会が開催され、石巻地域で加工用ばれいしょ生産に取り組む農業法人や関係機関が一堂に会しました。

今年度の作付面積は5法人、約48haで県内最大の産地となっています。

加工用ばれいしょを取り扱うカルビーポテト株式会社からは「宮城県内のばれいしょ生産動向及び課題等について」と題して、講演がありました。石巻地域では排水対策が徹底されており、今後は雑草対策、病害防除の徹底等、基本作業を励行するよう指導がありました。

石巻普及センターからは、昨年度より発行を始めた「ポテト通信」による定期的な情報提供等、「加工用ばれいしょ産地としての情報発信の取組」について話をしました。水田を利用した栽培のため、当所では、特に排水対策を中心に病虫害防除対策等の情報

を提供し、加工用ばれいしょ生産を支援していきます。

○枝もの用クロマツの播種作業研修会が開催されました

令和7年5月28日

気仙沼農業改良普及センター



令和7年5月16日、南三陸町において県主催による枝もの用クロマツ播種作業研修会が開催されました。

研修会には、宮城県クロマツ研究会、県関係者等、20人ほどが参加しました。

南三陸町で枝もの用クロマツの生産に取り組んでいる株式会社PineProの後藤社長が講師となり、今年の播種作業について説明を行った後、播種作業の実演を行いました。

昨年、溝掘、播種、覆土を一工程で行えるエンジン付き播種機を使用しましたが、出芽が良くなかったことから、今年は播種前に播種床を鎮圧し、その後電動播種機で播種した後、覆土を行っていました。

また、秋田県でクロマツ栽培に取り組んでいる生産者も参加し、秋田県での取組内容の他に、出芽率を上げるには鎮圧が重要である旨の話がありました。

参加した会員は播種作業を真剣に見学したほか、実際に播種機を操作しながら、後藤社長等と情報交換を行っていました。

普及センターでは、枝もの用クロマツ生産を拡大に向け、引き続き支援を行っていきます。

○JAみやぎ登米りんご生産部会総会が行われました

令和7年5月30日

登米農業改良普及センター



登米市では、中田町、東和町、登米町を中心にりんごが約26ha栽培され、県内有数の生産地となっています。

います。木の上で完熟させてから収穫する樹上完熟を特徴としており、深い甘みや豊かな果汁で美味しいとの評価をいただいています。

去る5月9日に登米市内のりんご生産を担うJAみやぎ登米りんご生産部会通常総会が行われ、部会員10人が出席しました。総会では、令和6年度事業実績、令和7年度事業計画などが原案のとおり承認されたほか、「栽培技術の向上、りんご・果樹の振興」に重点をおいて活動していくことを確認し、部会員間での情報交換も積極的に行われました。

普及センターでは、今後もJAみやぎ登米りんご生産部会の活動について支援を行ってまいります。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○巨理地区の令和7年度水稻育苗現地講習会が実施されました

令和7年5月1日

巨理農業改良普及センター



令和7年4月22日(火)、23日(水)にJA仙台北巨理地区水田営農部会主催の水稻育苗現地講習会が実施されました。

6地区に分かれて行われ、担当農家のハウス前で、普及センターから、「健苗育成と田植えまでの管理」について説明をしました。参加した生産者は、高密度播種や苗箱まかせの人もおり、生産者に合わせて育苗のポイントや管理の仕方など指導をしました。生産者からは、「米の価格は高くなったが、しっかりとした育苗を行い、米を多く取り、経営安定につなげたいので、参加した」という声も聞かれ、健苗への意識の高さが窺われました。

普及センターでは、関係機関と連携して、水稻の高品質安定生産に向けた支援を行っていきます。

○麦類現地検討会が開催されました

令和7年5月23日

石巻農業改良普及センター



令和7年4月8日、9日に、JAいしのまき主催の麦類現地検討会が、河北と矢本の2つの地区で開催されました。

現地検討会では、幼穂長を確認したほか、適期の減数分裂期追肥や赤カビ病の防除について指導を行ないました。近年は春先の気温が高めで、麦の生育が進みやすいので、適期を逃さぬように追肥や防除を行うことが大変重要となります。参加者は、麦の生育を確かめ、高品質な麦の生産に向けた今後の栽培管理を確認していました。

健康維持機能性への関心や国内産志向の高まりから麦類の需要は増加しており、管内の生産面積も拡大しています。普及センターはこれからも高品質麦の生産を支援していきます。

○種子大麦生産ほの第1期ほ場審査を行いました！

令和7年5月23日

石巻農業改良普及センター



令和7年4月25日、28日に管内の農業法人5法人を対象に種子大麦のほ場審査を行いました。

当管内では石巻市で29ha、東松島市で6haの種子大麦の生産が行われています。

大麦の種子生産ほでは出穂期と糊熟期の2回ほ場の審査が行われますが、今回、1回目の審査(出穂期審査)を行いました。審査には生産者、JAいしのまき職員が立ち会い、生育状況や栽培管理状況、変種・異品種の有無、病虫害等について審査をしました。4月が記録的な高温だった昨年と異なり、今年は気温が低い時期もありましたが、種子大麦の生育は概ね良好で全ほ場が合格となりました。

今後は、適切な赤かび病防除と適期刈取に向けた準備を進めるよう指導を行います。普及センターでは、優良な種子大麦の生産を支援していきます。

⑥地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○了美ヴィンヤード&ワイナリーが創立10周年記念式典を開催しました

令和7年5月16日

仙台農業改良普及センター



大和町の了美ヴィンヤード&ワイナリーは、一面に広がる広大な畑で約1万本のブドウが手作業で管理されており、レストランや宿泊施設も整備され、四季折々の景色とともにワインを楽しむことができます。

5月13日には大和町長や周辺自治体のトップ、関係者など約50人が集まり、ワイナリーの創立10周年を記念した式典が行われました。

当普及センターでは、これまで法人からの要望を受け、ブドウの栽培技術の指導を実施してきました。また、令和4年には農業大学の卒業生2名がブドウ栽培の職員として就職しております。

今後も、地域資源の活用による地域経済の活性化に向けて支援を続けてまいります。

○地域内外の人々が交流する田植え体験会が開催されました

令和7年5月16日

栗原農業改良普及センター





令和7年5月3日（土）、栗原市金成有壁地区で田植え体験会が開催されました。

金成有壁地区では、令和2年に「農村地域活性化ビジョン」が策定されています。ビジョンでは、農業法人の設立を軸とする担い手構想や地元の萩野酒造株式会社と連携した地域活性化構想などが掲げられており、今回は酒造好適米品種「吟のいろは」の栽培を通じた地域内外の人々との交流を深めることを目的として開かれ、26人の参加がありました。

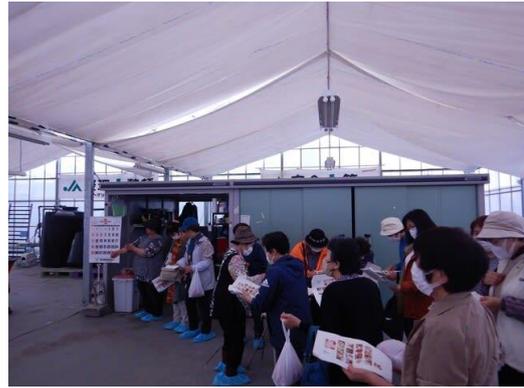
田植え体験は好天に恵まれ、地域住民による組織「有壁創生会」のメンバーが田植え方法を指導し、参加者は泥だらけになりながらも丁寧に苗を植えました。

機械は使わず一株ずつ手で田植えしたので、参加者への苗の受け渡しは、必然的に田んぼの畦から田んぼの中へまとまった苗を放り込む方法になりました。上手に苗をキャッチすると他の参加者から「おっ」や「ナイスキャッチ」と声が上がリ、キャッチに失敗すると田んぼに落ちた苗が泥水を跳ね上げ、「キャーッ」という歓声や笑い声が起こりました。心地良い汗を流した後は、萩野酒造株式会社様によるきき酒も行われ、参加者は充実した一日をすごしたようです。

参加者アンケートでは、「初めて有壁という町を知り、豊かな自然、おいしい酒、歴史に触れるきっかけになった」、「貴重な体験だった」、「また参加したい」という声が寄せられました。

当普及センターは、今年度も引き続き地域活性化の取組や法人設立に向けた地域の話し合いを支援してまいります。

○生活研究グループの研修会が開催されました
令和7年5月16日
気仙沼農業改良普及センター



令和7年5月12日に気仙沼市のいちごハウスにおいて、気仙沼地区生活研究グループの地域食材活用研修会が開催され、会員14名のほか市町や普及センターが参加しました。

普及センターから管内のいちごの生産状況と栽培概要、いちご活用のレシピについての説明を行い、生産者からはいちご栽培1年間の作業について紹介を行いました。その後、摘み取り体験を行い、参加者は和気あいあいとした雰囲気の中で交流を深めました。

昨年度開催された料理講習会では、いちご大福をつくりましたが、地元食材であるいちごの生産に関する知識不足が感じられました。今回の研修で摘み取り体験のほかにはいちごの生産に関する講習を行ったことで、参加者は気仙沼がいちごの産地であることを改めて実感し、消費者として産地を盛り上げていくきっかけとなりました。

普及センターでは、これからも生活研究グループの活動を支援していきます。

○利府高校の生徒による梨の花粉交配作業が行われました

令和7年5月19日
仙台農業改良普及センター



宮城県利府高校では、利府町の特産品である日本梨の花粉交配作業を通じて、郷土を理解し愛する心を培うふさと学習の推進を図り、地域社会との交流を深めるといった目的で開催しています。昨年は天候が悪く、中止となってしまい、2年ぶりの開催でした。

全体集会では、利府高校普通科の1年生40名が集まり、JA仙台東部営農センター職員から受粉作業について説明をした後、利府町内の農業者3名のほ場に別れて作業を行いました。それぞれの圃場に到着後、改めて園主から作業について説明を行い、各生徒に受粉に必要な道具と梨花粉が渡されました。

風が強く吹き、受粉にとってはあいにくの天候となりましたが、地元農業者や農協職員、役場職員などが生徒を見守り、時折アドバイスを生徒に行いました。めったにできない受粉作業体験に、生徒たちは真剣なまなざしで取り組んでいました。

○『幻のメロン』クールボジャ順調に生育中！

令和7年5月30日

巨理農業改良普及センター



全国でも一部地域でしか栽培されていない幻のメロン「クールボジャ」。

糖度が高い上にメロン特有のえぐみが少なく、えぐみが苦手な方でも食べやすいメロンとして、地域で親しまれている品種です。

岩沼市の農事組合法人林ライスでは、高齢化により栽培を断念した相野釜ハウス園芸組合から施設等を譲り受け、園芸組の元組合長の指導のもと、令和5年度から栽培に取り組み、今年で3シーズン目を迎えます。

過去2シーズンともに予約注文で売り切れるほど好評で、量販店や地域外に流通することがない、まさに「幻のメロン」となっています。

当法人では、農業大学を卒業後に就職した若手従業員を中心としてクールボジャを管理しています。園芸組元組合長とともに、昨年度普及センターで作成した栽培マニュアルを活用して技術継承が進んだこともあり、現在の生育は順調で、6月中旬以降の収穫を見込んでいます。

普及センターでは、地域特産物の栽培支援や、経営の課題解決など、幅広い支援を行っていきます。

2. 持続可能な農業・農村の構築

①環境に配慮した持続可能な農業生産

○海洋プラスチック問題に配慮したペースト肥料の実演会が開催されました

令和7年5月14日

気仙沼農業改良普及センター



令和7年5月12日に、気仙沼市の株式会社階上生産組合の水田においてペースト肥料を使った田植えが行われました。

階上生産組合では、2022年からプラスチック成分を含まないペースト状の肥料を使った取り組みを行っており、今年度で4年目です。今年度は施肥量の違いを見る実証試験となっています。従来の肥料は成分を徐々に溶け出させるため、プラスチックでコーティングされており、分解されなかったプラスチックが河川に流れ、海洋汚染の要因になると指摘されていました。今回使用したペースト2段施肥田植機は、施肥深度を上段と下段にすることで肥効の発現時期を調節できるほか、施肥、箱処理剤散布の全てを1度の田植えで行うことができるため、省力化にも繋がります。

なお、今回田植えをした米は気仙沼市内の小中学校の給食として提供される予定です。

実証ほの設置は、JAと肥料メーカーが主体ですが、県も関係者と連携して当該技術の取組を支援していきます。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



***各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.220

発行日:2025年6月11日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp